一般財団法人京都ユースホステル協会

2017年度事業報告書

期間：２０１７年４月１日～２０１８年３月３１日

“**Say Hi to the world** ー旅の持つ力ー”

若者が世界（旅）の扉を開けて　学びや発見に出会うために

ユースホステルはいつも彼らを応援します

〒616-8191　京都市右京区太秦中山町 29　宇多野 YH 内

TEL: 075-462-2312　FAX: 075-462-2289

URL: http://www.yh-kyoto.or.jp　E-mail: kyh@yh-kyoto.or.jp

目 次

目　次 …… 3

はじめに …… 4

数値目標達成状況 …… 5

事業活動概況

I.　ユースホステル活動 …… 6 - 9

II.　ユースホステル関連活動 …… 10 - 11

III.　宇多野ユースホステル（指定管理事業） …… 12 - 15

IV.　天橋立ユースホステル（指定管理事業） …… 16 - 17

V.　組織運営 …… 18

財務状況 …… 19 - 20

（別添資料）　公益目的支出計画実施報告書

2017 年度事業別詳細資料

はじめに

長い間、当協会の活動や運営に大きな力を注いでいただいておりました大秦副会長が、体調を崩され 2018 年 2 月に逝去されました。

宇多野ユースホステルの全面改築や当協会の事業分野の集約、運営の効率化など、様々な改革で現場を見守っていただき、変化に対応する改革に取り組む力を与えていただきました。大変残念でなりませんが、これまでの支援に改めて感謝すると共に、ご冥福をお祈りさせていただきます。

2017 年度は、訪日外国人の増加が続くと共に、民泊関連法案が可決され受け入れ施設の多様化が進み、新しい形態の宿泊施設も生まれるなど、各施設の特色や役割、運営の質などがこれまで以上に問われる状況になってまいりました。

当協会では、これまでの事業や活動、施設運営などについて、外部の機関や団体との協働や連携を更に図りながら、その魅力や質の向上、特色づくりに取り組んでまいりました。その他、若者に特化した事業や活動の展開、ユースホステルの新しい価値の創造、協会の次の担い手となる若手や中堅の人材育成など、今後に向けた課題へも継続して対応してまいりました。

またこうした取り組みを進めるために、魅力的な価値を生みだす事業や活動の開拓分野へ人的な資源を再配分できるよう業務の効率化や見直しなども継続して進めております。

今年度は、こうした取り組みを結果に結びつけることが出来ない事業もあり、全体としては年度目標を下回る結果となりました。

◆事業活動参加者数　24,148名（前年比7.4%増）
◆食堂運営（朝夕合計食事摂取数）　52,828食（前年比0.6%増）
◆宇多野ユースホステル宿泊者数　38,706名（前年比5.1%減）
◆天橋立ユースホステル宿泊者数　3,010名（前年比3.7%減）

経常利益についてもユースホステルの利用減少の中で食堂運営の健闘はあったものの目標達成には至りませんでした。

◆経常収益（収入）　214,339,353円（前年比1.5%減）
◆経常増減額（利益）　4,321,082円（前年比33.8%減）

その他、継続協議が続いております天橋立ユースホステルの耐震補強・老朽化改修につきましては、継続して運営するための耐震補強改修等は理解しているものの、どこまでの耐震老朽化の費用負担が可能かについて、宮津市内部で検討協議を行っており、当協会との協議も継続となっております。

2018年度の指定管理運営終了までの協議スケジュールの確認と結論に向けて更に協議を進めてまいります。

日本においては厳しい状況もありますが、海外のユースホステル協会では、デジタル会員証の発行や環境への負荷を少なくする持続可能な運営など、他の施設や取り組みと差別化できる分野に積極的な展開を会員や利用者を巻き込んで継続して行っております。

日本や京都においても先進的な取り組み、変化に対応できる運営や改革を近畿ブロックユースホステル協議会や海外のユースホステルとも連携しながら今後も進めてまいります。

専務理事　髙田光治

数値目標達成状況

（１）事業・取り組み

事業活動	目標設定項目	目標値	実績値	達成度
ＹＨ活動	イベント参加者数	18,500 人	24,148 人	130.5%
	青少年イベント参加者数	5,000 人	6,181 人	123.6%
ＹＨ関連活動	夕食提供数	21,190 食	21,444 食	101.2%
	朝食提供数	32,600 食	31,384 食	96.3%
	満足度アンケート（夕食）	4.5 点	4.43 点	98.4%
	満足度アンケート（朝食）	4.5 点	4.47 点	99.3%
宇多野ＹＨ	宿泊実績	40,750 人	38,706 人	95.0%
	外国人宿泊実績	13,500 人	10,489 人	77.7%
	青少年宿泊実績	26,488 人	24,928 人	94.1%
天橋立ＹＨ	宿泊実績	3,400 人	3,010 人	88.5%
	外国人宿泊実績	800 人	798 人	99.8%

（２）収支状況

	一般会計 建設基金	物頒会計	宇多野会計	天橋立会計	総　合
予　算	－2,027,000 円	7,253,000 円	315,000 円	－733,000 円	4,808,000 円
実　績	－2,181,263 円	8,056,909 円	28,243 円	－1,582,807 円	4,321,082 円
差　額 （対予算）	－154,263 円	803,909 円	－286,757 円	－849,807 円	－486,918 円

事業活動概況）Ⅰ．ユースホステル活動

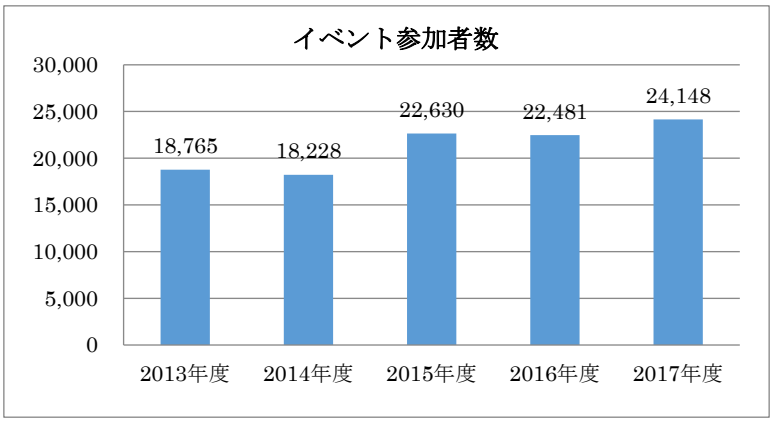
（1） 目標と達成状況

■（目標）イベント・事業活動参加者数：延 18,500 名

■（結果）イベント・事業活動参加者数：延 24,148 名（目標達成率：130 %）

参加者数は前年度から若干増加しました。減少傾向だったエブリデイワンの参加者数は、宿泊状況にあわせたイベント内容の見直しを行ない、参加しやすい状況を作ったことも一因と思われます。

また、まいまい京都では年間初の 1 万人を超える参加者数となり、事業活動の総参加者人数を増やすことに貢献しました。一方、課題としては継続的に関わってくれる運営協力者が減少してきており、新しい取り組みのための人員確保も難しい状況となってきています。様々な場所でアンテナを張り関係機関に声掛けをし、新しい展開のための仲間作りの検討を行っています。



■（目標）青少年を対象としたイベントや事業活動参加者数：延 5,000 名

■（結果）青少年を対象としたイベントや事業活動参加者数：延 6,181 名（目標達成率：123.0%）

若旅授業を始めとした旅に関する講義やトークイベントを複数回実施したのに加え、インターンシップや就労体験事業、子どもを対象とした共催事業も順調に実施し、目標とする参加者数を達成することができました。

■（目標）耐震補強・改修を見据えた天橋立ユースホステルでの事業活動の企画立案

■（結果）複数企画はしたものの先を見据えた持続可能な運営につながるまでには至っていない

カヌーや定置網漁体験と宿泊をセットにしたプラン、地元のお祭り鑑賞とセットにしたプラン、グループ貸し切りプラン等企画はしましたが、先を見据えた持続可能な運営につながる手ごたえのある企画や計画には至っていません。

なお、耐震改修・老朽化補修については、宮津市との間で協議を継続しており、そのための時間を確保するため 2018 年度 1 年間の指定管理者募集に応募し、選定されました。

（2） トピックス

1. キーホステルの役割を意識したユースホステルの旅の楽しさを演出

宇多野ユースホステルで宿泊者向けに毎日夜に開催しているイベント「エブリデイワン」を、多様な人が行き交うプラットフォームとして位置づけ、交流でき楽しめる機会の提供を継続して行いました。インターンや留学生、学生や地域のボランティア、また宿泊者グループにもこの場を活用して地域の紹介や活動の発表、交流などを行っていただきました。その中で、ユースホステルの良さや魅力に触れてもらい、今後ユースホステルを使った旅に出てもらうことにつながればと考えています。　参加者数：全 327 回　5,396 名

2. 若者を対象とした旅の講演会を実施

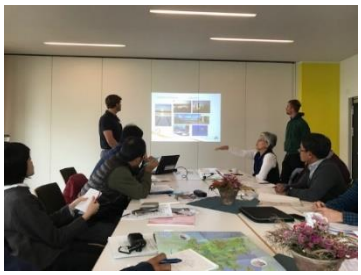
観光庁・近畿運輸局と連携して学生を対象に旅の魅力や学び、その体験の素晴らしさを啓発する「若旅授業」を実施し、ユースホステルについての紹介などを行いました。安く滞在できる宿泊施設というだけでなく、多様な体験や交流、相互理解が深まる旅の活動に取り組む運動体であることを知ってもらいました。

- 6 月 1 日　　京都学園大学：参加者 132 名（若旅授業）
- 9 月 1 日　　京都学園大学、人間環境大学、鳥取環境大学、豊橋科学技術大学
  4 大学連携セミナー：参加者 20 名
- 10 月 17 日　鈴鹿大学：参加者 100 名（若旅授業）
- 11 月　　京都市内にある 6 つの大学ユースホステルクラブを訪問、意見交換とあわせて
  ユースホステルに関するレクチャーも行いました。
- 12 月 22 日　野外活動団体所属の大学生リーダー向けに講演：参加者 50 名

た

3. 日本とドイツのユースホステル関係者の交流事業

文科省の青少年国際交流推進事業の一環で日本ユースホステル協会が主体となり、ドイツのユースホステル関係者 7 名が 7 月に来日しました。京都と沖縄が訪問地となり、京都滞在においてプログラム企画や当日のコーディネートを行いました。京都府内の各ユースホステルを視察、関連事業の紹介や体験、意見交換等を行いました。また 10 月には日本からドイツへ職員を派遣し現地のユースホステルを視察、関係者と交流し運営等学んできました。



4. 好調のまち歩きミニツアー「まいまい京都」

6 年目に入ったまいまい京都も年間の参加者が初の 1 万人を超えました。3 月にはホームページもリニューアルし、開催地域も京都を中心に大阪や奈良、神戸等近畿圏内に広げ開催しています。

また、宇多野ユースホステルを使った 1 泊 2 日の宿泊型ツアーも実施しました。

参加者数：全 616 回　延 11,142 名

実施協力：まいまい京都実行委員会、京都商工会議所、京都岡崎魅力づくり推進協議会他

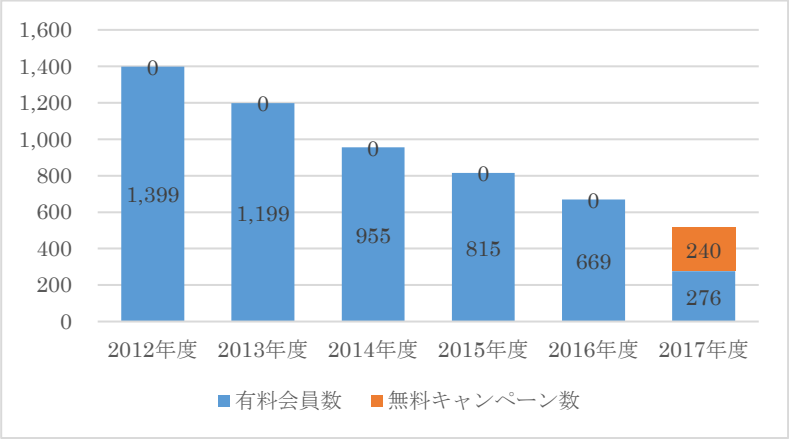
5. 近畿ブロックやキーホステルと連携した取り組み

近畿ブロックユースホステル協議会と連携して、近畿在住の 23 歳以下の青少年を対象にしたユースホステル会員証の無料発行キャンペーンを実施しました。ホームページの整備や案内チラシとあわせて近畿のユースホステルを網羅した紹介冊子も作成しました。近畿全体で 695 名、京都では 240 名の入会がありました。

また全国のキーホステルでは、団体グループ誘致を念頭においた統一感のあるパンフレットの作成を行いました。

6. 京都府下のユースホステル会員数および利用状況

【ユースホステル会員数】



※　近畿ブロックユースホステル協議会の取り組みとして、2017 年 5 月より近畿在住の 23 歳未満の青少年に対してユースホステル会員証の「登録無料キャンペーン」を実施。

【ユースホステル利用状況】

	ユースホステル名	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度
1	宇多野ユースホステル	35,748 人	36,410 人	38,074 人	40,368 人	40,768 人	38,706 人
2	清水ユースホステル	1,830 人	1,903 人	1,781 人	1,239 人	1,265 人	931 人
3	美山ハイマートユースホステル	944 人	960 人	902 人	967 人	1,003 人	776 人
4	天橋立ユースホステル	3,058 人	3,381 人	2,710 人	3,234 人	3,126 人	3,010 人
5	はしうど荘ユースホステル	64 人	156 人	- - -	108 人	- - -	（閉館）
合計		41,644 人	42,810 人	43,467 人	45,916 人	46,162 人	43,423 人

※　清水ユースホステルは 2015 年度 12 月中旬～3 月上旬まで休館。

※　はしうど荘ユースホステルは 2017 年 12 月末をもって閉館。

事業活動概況） II. ユースホステル関連活動

（1） 目標と達成状況

■ （目標）夕食提供数：21,190 食（摂取率 52.0%）

■ （結果）夕食提供数：21,444 食（摂取率 55.4%）

目標達成率：101.2%、対前年度：＋557 食

■ （目標）朝食提供数：32,600 食（摂取率 80.0%）

■ （結果）朝食提供数：31,384 食（摂取率 81.1%）

目標達成率：96.3%、対前年度：－239 食

■ （目標）アンケート満足度評価：4.50 点以上　※5 点満点

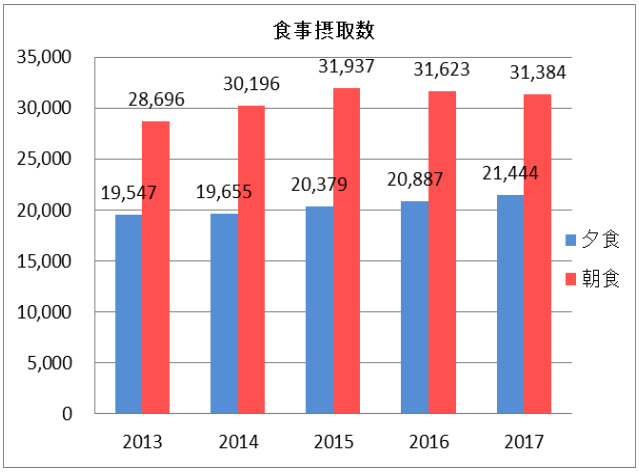
■ （結果）アンケート満足度評価：夕食 4.43 点（昨年度 4.46 点）

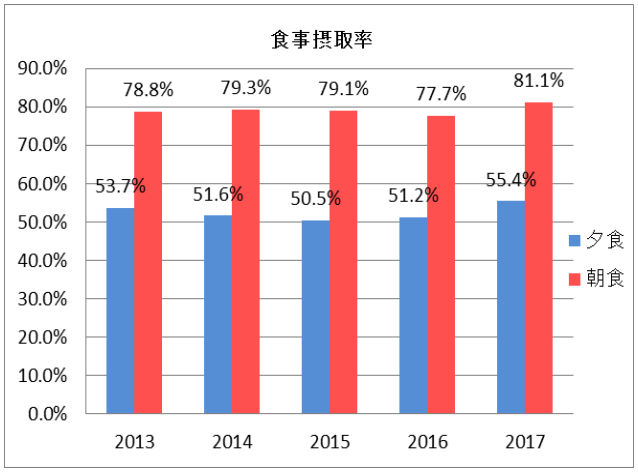
朝食 4.47 点（昨年度 4.46 点）

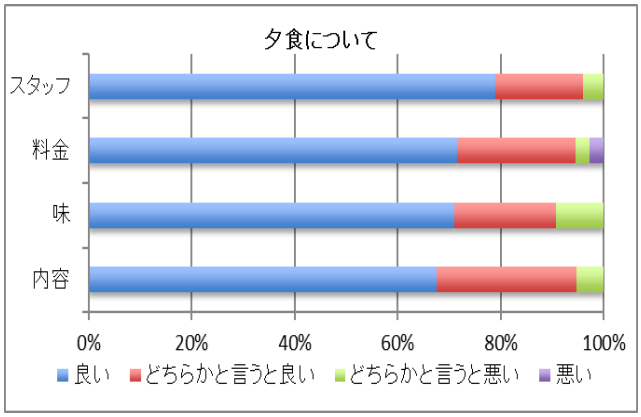
（2） トピックス

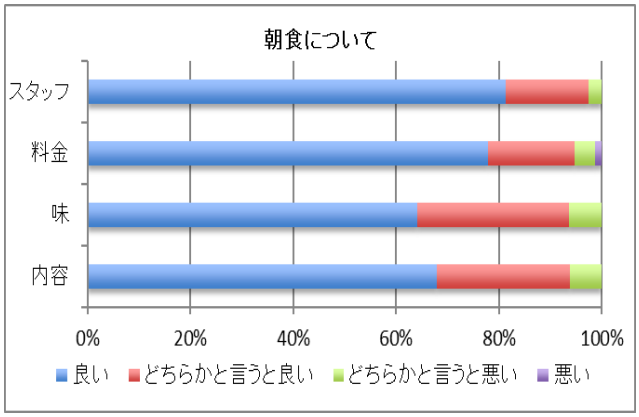
1. 摂取率が夕食・朝食ともに大きな伸びに

宿泊実績数が昨年より減っている中、日本人や団体での利用が増えたためか食事の摂取率が高くなりました。それぞれのニーズに合わせ、夕食メニューや料金グレードのバリエーションを用意することで、より宇多野ユースでの食事を楽しんでいただきやすくしています。









2. 食を楽しめるイメージアップの取り組み

おばんざいバイキングやカレーバイキングなどは好評につき引き続き実施し、新たに夕食メニューとして“おばんざい御膳”や節分の“寿司ディナー”など、新しい食の楽しさをお届けする取り組みを行いました。英語で節分についてのレクチャーをし、海外の学生さんたちも恵方巻にかぶりついていました。

その他、京都ブランドの澤井醤油やツバメソース、七味など調味料にも京都色を出しています。

3. 安心・安全の食の提供

保健所に依頼して専門家による食中毒に対する研修を受講、また京都府おこしやす事業主催のアレルギー研修会に参加、そして自主研修としてノロ対策研修を行うなど、食中毒や食物アレルギーについての研鑽を日々積んでいます。

また、厨房内に立ち入るものは全員、毎月（食中毒が起こりやすい月は 2 回）保菌検査を行うなど徹底して安全に取り組んでいます。

食物アレルギー対応については、メニュー変更だけでなく盛り付けるお皿の再洗浄から気を付けて、問題なく食事を楽しんでいただけるよう提供をしています。

事業活動概況） Ⅲ. 宇多野ユースホステル

（1） 目標と達成状況

■ （目標）年間宿泊実績：40,750 名

■ （結果）年間宿泊実績：38,706 名（目標達成率：95.0%、対前年度：－2,062 名）

■ （目標）年間外国人宿泊実績：13,500 名

■ （結果）年間外国人宿泊実績：10,489 名（目標達成率：77.7%、対前年度：－2,666 名）

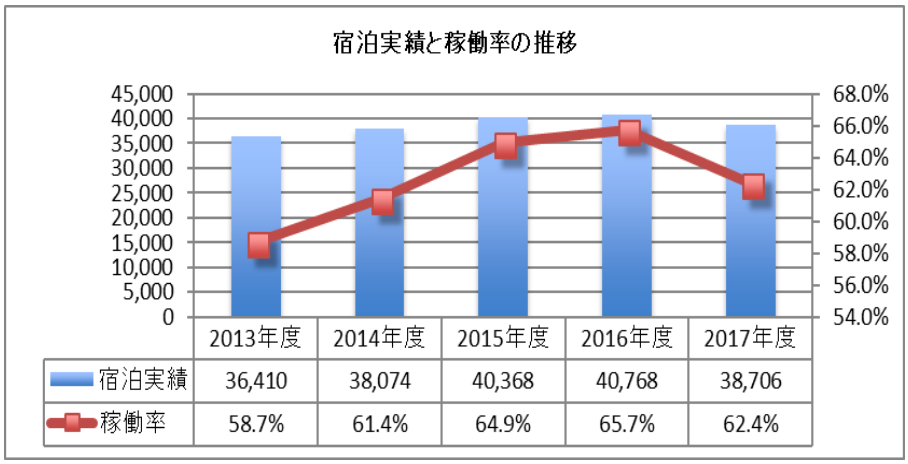
■ （目標）年間青少年宿泊実績：26,488 名

■ （結果）年間青少年宿泊実績：24,928 名（目標達成率：94.1%、対前年度：－820 名）

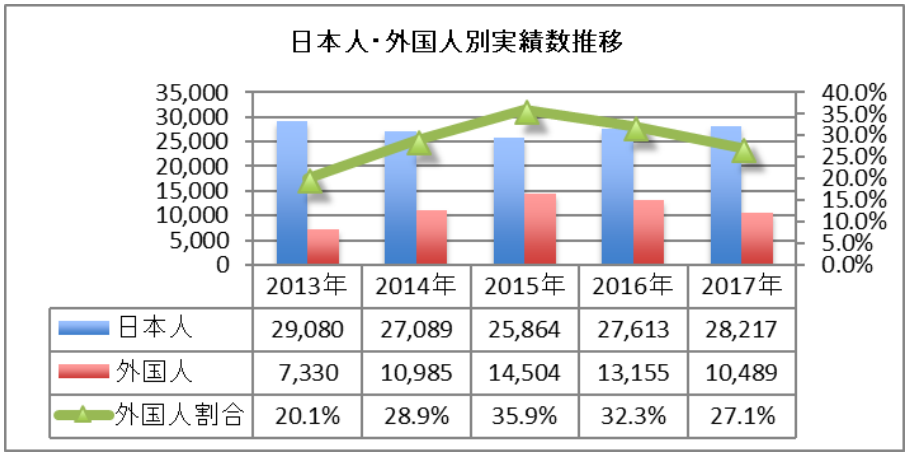
（2） トピックス

1. 海外からの宿泊者数が減少

過去最高であった昨年の宿泊実績より外国人利用者数が減少となりました。日本人宿泊数は増加していますので、社会的な要因（民泊、地方へのデスティネーション変化など）の分析と対応が必要になってくると思われます。中国学生団体の宿泊が今年度少なかったのも原因の一つです。



	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
宿泊実績	36,410	38,074	40,368	40,768	38,706
稼働率	58.7%	61.4%	64.9%	65.7%	62.4%



	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
日本人	29,080	27,089	25,864	27,613	28,217
外国人	7,330	10,985	14,504	13,155	10,489
外国人割合	20.1%	28.9%	35.9%	32.3%	27.1%

2. 伸び続ける国内団体利用

青少年育成施設としての学校団体の利用が年々多くなっています。この宿泊を機会にユースホステルを魅力的に感じ、将来世界のユースホステルを利用してもらえるような国際交流の取り組みを積極的に行っています。

また少人数である海外のグループには、ユースホステルで実施可能な交流や体験などを案内し、他の施設との差別化を図っています。

【学校団体利用実績】　※(　　)内は対前年度実績

	合計	内訳		
		小学校	中学校	高校
学校団体利用実績	98校(＋17校)	32校(＋5校)	57校(＋13校)	14校(＋5校)
泊数	140泊(＋32泊)	34泊(＋6泊)	95泊(＋26泊)	18泊(＋7泊)
述べ宿泊数	10,108名(＋1,406)	2,089名(＋193名)	7,651名(＋1,188名)	789名(＋183名)
平均泊数	1.35泊(＋0,15泊)	1.06泊(＋0.03泊)	1.71泊(＋0.15泊)	1.38泊(＋0.16泊)
海外学生団体	91件(-5件)	上位国　(　)内は昨年度		
泊数	233泊(-49泊)	フランス21件、オーストラリア15件、アメリカ13件、韓国10件		
述べ宿泊者数	6,219名(-958名)	(オーストラリア19件、アメリカ16件、フランス14件、中国12件)		
平均泊数	2.74泊(-0.2泊)			

3. 東アジアの変動が大きい

アメリカ、オーストラリア、ヨーロッパ勢の大きな変動がない中、中国学生の宿泊減少と台湾、韓国の減少が目立ちます。訪日数が落ちているわけでは無いため、トレンドの変化を把握し東アジア団体へのアプローチを引き続き行います。

【外国人国別トップ10】

順位	2013年度		2014年度		2015年度		2016年度		2017年度	
	国名	泊数	国名	泊数	国名	泊数	国名	泊数	国名	泊数
1	韓国	1,123	台湾	1,703	韓国	1,649	中国	2,873	アメリカ	1,580
2	アメリカ	861	アメリカ	1,516	アメリカ	1,601	アメリカ	1,483	フランス	1,284
3	台湾	743	韓国	1,440	台湾	1,295	韓国	1,376	ｵｰｽﾄﾗﾘｱ	1,136
4	フランス	615	ｵｰｽﾄﾗﾘｱ	1,011	ｵｰｽﾄﾗﾘｱ	1,165	ｵｰｽﾄﾗﾘｱ	1,176	中国	1,070
5	中国	581	フランス	702	中国	1,036	フランス	1,120	韓国	958
6	ｵｰｽﾄﾗﾘｱ	541	中国	606	オランダ	1,008	台湾	1,065	ドイツ	678
7	ドイツ	457	ドイツ	511	フランス	963	ドイツ	704	台湾	615
8	カナダ	333	イギリス	457	ドイツ	837	イギリス	384	イギリス	493
9	タイ	265	タイ	333	デンマーク	628	ｼﾝｶﾞﾎﾟｰﾙ	315	カナダ	473
10	イギリス	226	カナダ	314	イギリス	477	カナダ	282	ノルウェー	292
	その他	1,585	その他	2,392	その他	3,845	その他	2,377	その他	1,910
	合計	7,330	合計	10,985	合計	14,504	合計	13,155	合計	10,489

4. その他

青少年育成団体や地域との連携

本年度受賞　＊平成 29 年度　障害者雇用功労団体として知事賞受賞（鳴滝支援学校の推薦）
　　＊平成 29 年度　きょうと地域力アップ貢献事業者受賞（宇多野自治会連合会の推薦）

［青少年受入事業］

■海外青少年の活動受入

日頃のユースホステルでの日常業務やエブリデイワン交流の他、地域小学校で英語クラブでの活動やフェスティバルなどのイベントでユースホステルを広報する役目も担ってくれています。

・ドイツ IJGD よりドイツ人青少年を受入（4 名 1 年間）
・ワーキングホリデー青少年の受入（随時）今年度は台湾、ドイツより
・台湾南台科技大学より日本語学科の学生実習生受入　（3 名）

▲宇多野小学校英語クラブ（立命館の留学生も参加）

▲厨房や館内清掃をはじめイベントでも大活躍

■生き方探求・チャレンジ体験受入（京都市内の中学生）参加人数：14 名
清掃作業やフロント業務、事務作業に従事しました。

連携学校名	活動期間	参加者数
蜂ヶ岡中学校	9 月 5 日～8 日	4 名
太秦中学校	10 月 30 日～11 月 2 日	4 名
双ヶ岡中学校	11 月 7 日～11 月 10 日	2 名
京都教育大学小中学校	2 月 27 日～3 月 1 日	4 名

■鳴滝総合支援学校就労支援の受入　参加人数：個人 6 名、グループ延 85 名

個人受入は 10 日～2 週間程度の期間の中で浴室の清掃作業を中心に実習を行います。作業とあわせて他のスタッフとの連絡や報告、挨拶などのコミュニケーションも重要視しています。

月 1 回のグループ受入は 17 名程度が窓ガラスや床カーペット清掃の他、定期的に枕カバーやスタッフユニフォームのクリーニングも実習として行っています。

［地域活動事業］

■右京ふれあいフェスティバル出展

宇多野ユースホステルがある右京区で毎年行われるお祭りに出展しました。あいにくの雨となり来場者は少なかったですが、地域の一員としても認知されるよう PR しました。

開催日：2017 年 10 月 28 日（土）／ブース来場者数：15 名
場　所：太秦安井公園及び右京ふれあい文化会館

■右京ワールドミュージックフェスタ出展

世界の音楽やワークショップ、屋台等に交じり出展しました。ドイツ人インターンと共にユースホステル紹介と合わせて飾り結びの体験会を行い、子ども達に国際交流を楽しんでもらいました。

開催日：2018 年 3 月 11 日（日）／ブース来場者：25 名

場　所：右京ふれあい文化会館

■宇多野地域の歴史散策の会「京都うなやと」への参画

昨年度宇多野自治会連合会および宇多野学区有志のメンバーで立ちあがった歴史散策の会に職員も参画。地元をより深く知るためのまち歩き企画を 2 回実施しました。

▲5/28 福王子神社にて宮司さんにお話しを伺う。　▲11/23　紅葉の広沢池や大仙寺にて住職にお話しを伺う。

■その他、ユースホステル職員による地域活動

宇多野小学校学校運営委員会、鳴滝総合支援学校運営委員会、右京区行政推進会議オブザーバー、右京ふれあい文化会館活性化協議会、右京区まちづくり区民会議、歴史回廊運営協議会他への参加や協力

営業広報等

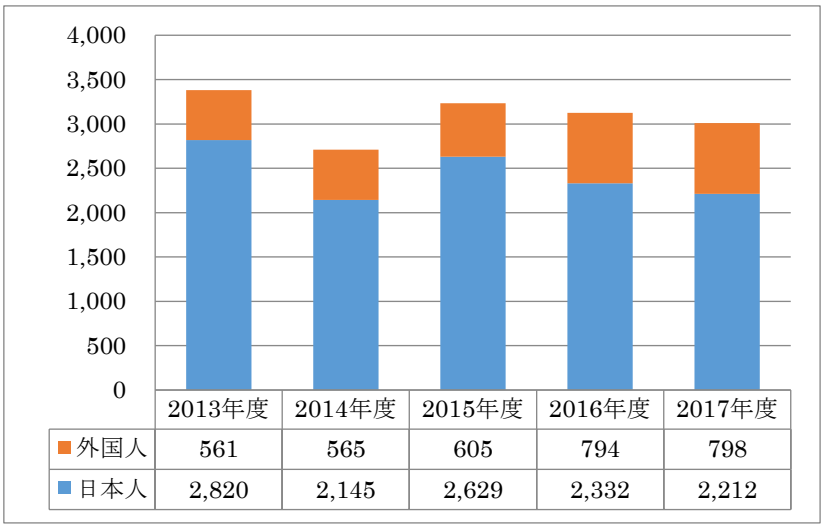
- VISIT JAPAN トラベルマート 2017　商談会参加
- 京都市海外拠点事務所へのアプローチ
- 海外 JNTO 事務所へのアプローチ
- 国内大規模ユースホステルでの連携した広報活動
- 予約オンラインサイトでの売り出しと管理
- 自社ホームページの効率的な運営の見直し
- 宇多野 YH 職員による日独青少年国際交流推進事業参加（文科省）　　他、営業活動随時実施

事業活動概況）Ⅳ. 天橋立ユースホステル

（1） 目標と達成状況

■（目標）年間宿泊実績：3,400 名

■（結果）年間宿泊実績：3,010 名　（目標達成率 88.5%、対前年度比：－116 名）



■（目標）年間外国人宿泊実績：800 名

■（結果）年間外国人宿泊実績：798 名　（目標達成率 99.8%、対前年度比：+4 名）

【外国人国別 TOP10】

	2013 年度		2014 年度		2015 年度		2016 年度		2017 年度	
	国名	泊数	国名	泊数	国名	泊数	国名	泊数	国名	泊数
1	フランス	122	アメリカ	61	台湾	102	台湾	162	台湾	217
2	韓国	75	ドイツ	59	フランス	78	フランス	76	フランス	69
3	ドイツ	68	韓国	53	ドイツ	66	韓国	52	香港	64
4	台湾	61	フランス	51	中国	50	ｵｰｽﾄﾗﾘｱ / 中国 / ﾌﾞｰﾀﾝ	48	ドイツ / 韓国	61
5	ｵｰｽﾄﾗﾘｱ	35	台湾	41	イギリス	43	ドイツ	46	中国	54
6	スイス	33	マレーシア	41	香港	34	ｵﾗﾝﾀﾞ / 香港	28	タイ	41
7	中国	22	ﾆｭｰｼﾞｰﾗﾝﾄﾞ	38	スイス	29	タイ	27	アメリカ	36
8	イギリス	21	香港	34	韓国	27	ｲﾀﾘｱ / ｽﾍﾟｲﾝ	25	マレーシア	27
9	アメリカ	17	中国	34	アメリカ	26	アメリカ	24	ブータン	24
10	オランダ	13	ｵｰｽﾄﾗﾘｱ	23	ｵｰｽﾄﾗﾘｱ/ ｶﾅﾀﾞ	16	マレーシア	19	イギリス	19

■（目標）耐震補強および施設改修に向けた準備を進める

■（結果）宮津市と継続的な協議を行ってきたが結論が出ず、指定管理での施設運営が一年延長となった。

（２） トピックス

1. 効率的な運営や収益改善の取り組み

複数のインターネットの予約サイトを一元管理するサイトコントローラーを導入し、特に海外からの予約を受けやすい環境整備を行いました。

合わせて、予約が入った際も食事の提供やユースホステルまでのアクセスや周辺案内について細やかな案内を送るよう努め、外国人宿泊者の獲得に繋げました。

2. 地域資源を活用した食事の取り組み

冬場のカニパックの提供は継続しながら、近海の朝獲れ魚を使ったお刺身定食や、朝食には地元の食材や調味料を使った「丹後の朝ごはん」と銘打った和朝食を提供しました。

また、丹後の地酒の飲み比べのセットや「丹後の味わい３種盛り」と題してヘシコや佃煮、糀漬けなどの珍味を食事中や食前食後にも提供しました。

3. 宿泊者と地域を結ぶ取り組み

毎年綺麗に咲いてくれる枝垂れ桜のライトアップとあわせて地域の方に開放しお花見を楽しんでもらいました。また地域のお祭りへの引率ツアー（宮津祭）や案内も積極的に行い地域の歴史文化を知ってもらいました。

夏には、福知山公立大学からインターン生を２名受け入れし、日常の宿泊運営と共に地域の魅力をフィールドワークしてもらい、宿泊者へ観光案内等もしてもらいました。

4. 施設の今後に向けた取り組み

残念ながら年度内に耐震補強、施設改修に関する目途は立たず、引き続き宮津市と協議をすることになりました。

スタッフも入れ替わる中で、新しい運営体制の確立と引き継ぎに努めました。

事業活動概況）Ⅴ. 組織運営

（1） 目標と達成状況

■ 人材育成による組織力の強化
■ 組織の安定運営の持続と次への準備

年々、若い人材の確保が難しくなる中、年度途中での退職もあり計画的に人材育成を行う時間を取ることが出来ませんでした。

ただ、そういった中でも、事業や運営における実施目的の整理や業務の効率性を考えた工夫の提案、企画立案のスキル向上などをミーティングや日常の中で指導を行いました。

また、運営人員が少ない分、人の入れ替わりが起こると大きな負担が発生することが課題となっているため、今後に向けて業務の整理や作業の一般化に努めたいと思います。

次年度に向けては、若手職員を正職員登用し、将来を見据えた人員配置を計画的に進めています。

財務状況

（１）概　要

１．決算概況

順調に宿泊者数を伸ばしてきた宇多野ユースホステルでは、計画に沿って職員を１名増員し体制を強化して施設や事業の運営に当たりましたが、目標としていた宿泊者数による事業収入を見込めないことが想定されたため、施設修繕等の支出を調整しました。その結果、収支差額は 28,243 円（対前年度：－3,165,125 円）となりました。利用料金制での運営のため、より丁寧な収支状況の把握と予算執行の管理が重要となっています。

天橋立ユースホステルに関しても宿泊者数減少に伴う減収、また職員の退職に伴う費用の発生などにより、宮津市からの運営費補填を得ても－1,582,807 円の収支差額となりました。

そういった中で、収益事業である宇多野ユースホステルにおける食事提供については、前年度に対して宿泊者数が減少する中で夕食提供数を伸ばしました。前年度比 152.7%、7,375,170 円の収支差額となりました。

最終的に、2017 年度の経常増減額（経常利益）は前年度に比べて 2,208,658 円少ない 4,321,081 円となり、正味財産期末残高は 96,277,007 円となりました。

［経営実績の推移］

科　　目	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度
経常収益（収入）	194,365,919	196,946,399	220,025,139	217,538,436	214,339,353
事業推進業務	62,886,837	60,623,410	63,716,757	63,703,216	67,027,118
指定管理業務	120,080,629	125,876,710	144,958,944	143,549,047	137,876,004
組織運営業務	11,398,453	10,446,279	11,349,438	10,286,173	9,436,231
経常費用（費用）	181,001,254	186,432,548	212,862,897	211,008,692	210,018,271
事業推進業務	51,584,689	53,149,431	56,219,315	57,403,144	58,758,578
指定管理業務	115,169,662	121,991,861	143,577,163	142,175,295	139,642,199
組織運営業務	14,246,903	11,291,256	13,066,419	11,430,253	11,617,494
当期経常増減額（経常利益）	13,364,665	10,513,851	7,162,242	6,529,744	4,321,082
経常外増減額（経常外利益）	-3	0	0	-5	-1
当期正味財産増加額（純利益）	13,364,662	10,513,851	7,162,242	6,529,739	4,321,081
正味財産期末残高	67,750,094	78,263,945	85,426,187	91,955,926	96,277,007

※ 2015 年度より宇多野ユースホステルは利用料金制での運営となりました。

２．公益目的財産額

2017 年度の公益目的財産額については、公益目的のために青少年育成事業で 1,422,225 円、天橋立ユースホステルでは 1,794,438 円を支出しましたが、宇多野ユースホステルでは公益目的財産額を 28,243 円増加させました。

全体では 3,188,421 円を公益目的事業のために支出し、その結果、期末の公益目的財産額は 50,657,098 円となりました。

［公益目的事業の推移］

	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度
公益目的財産額（期首）	47,651,494	51,297,844	54,189,392	53,968,351	53,845,519
公益目的財産収支差額	3,646,350	2,891,548	- 221,041	- 122,832	- 3188421
公益目的財産額（期末）	51,297,844	54,189,392	53,968,351	53,845,519	50,657,098